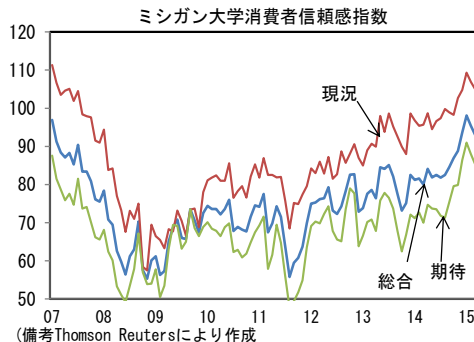
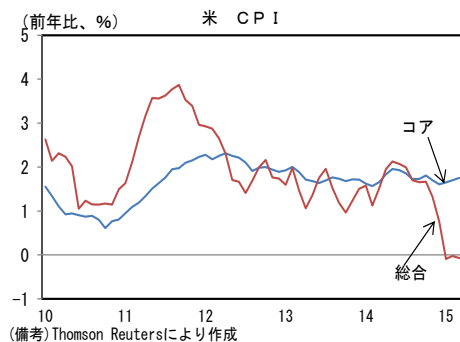


【海外経済指標他】～コア物価：コア財が強い～

- ・3月米CPIは前月比+0.2%、前年比▲0.1%と概ね市場予想通りとなった。原油安一服を受けてエネルギーが前月比+1.1%と2ヶ月連続で上昇した反面、食料が▲0.2%と弱かった。他方、コア物価は前月比+0.2%、前年比+1.8%と予想より強めの結果となり、前年比伸び率は2014年10月以来の高さを記録。特にコア財は前月比+0.3%と2月の+0.2%に続き高い伸びを示し、直近2ヶ月のモメンタムは2011年央以来の強さとなっている。品目別では中古車(+1.2%)、衣料品(+0.5)の強さが目立った。コアサービスも+0.2%と堅調。低空室率を背景に家賃が前月比+0.3%、前年比+3.5%と堅調で上昇を牽引。今回の結果は、米国経済がデフレの脅威とは程遠いことを示すほか、それを根拠に利上げを主張するFEDタカ派の見解をサポートしている。
- ・4月ミシガン大学消費者信頼感指数は95.9と市場予想(94.0)を上回り前月(93.0)から改善。内訳は現況(105.0→108.2)、期待(85.3→88.0)が共に2ヶ月ぶりに改善。原油安メリットは一服したとみられるが、雇用環境の持続的改善を背景に消費者心理が一段と上向いたとみられる。米国全他でみると、企業とりわけ製造業セクターのマインドが悪化するのをよそに消費者マインドは改善傾向にあり、景気の先行指標が斑模様になっている。一先ずUSD高の悪影響は、製造業に留まっていると解釈すべきだろう。

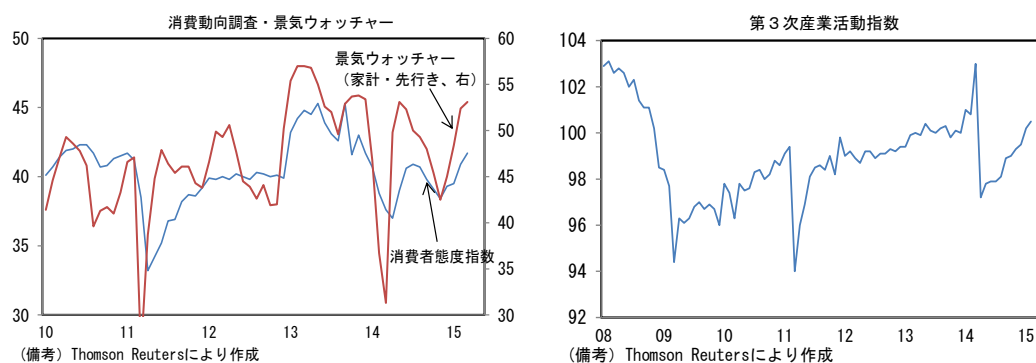


【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

- ・前日の米国株は大幅下落。世界的なBloombergの接続障害と中国市場における空売り規制の緩和措置の発表を受け、欧州市場が混乱したこともあり、米国株は当初から軟調。企業決算とそれに失望した個別銘柄の売りも相場下落に拍車をかけた。欧米各国で軒並み1%ないしは2%を超える下落となった。
- ・前日のG10通貨はUSD売りが一服。米CPI統計公表後は米金利上昇・USD高で反応したものの長続きはせず、その後はUSD売りが優勢となった。USD/JPYは119近傍、EUR/USDは1.08近傍で一進一退。週明けオセアニア時間では、週末に発表された中国預金準備率引き下げ(19.5%→18.5%)を受けてAUDが堅調。
- ・米10年金利は▲2.4bpの1.865%。米CPIは米債売りを支持する内容だったが、その後は株安が進むなかでリスクオフの米債ラリー。欧州債市場では独10年が0.078%と既往最低を更新した一方、ギリシャ懸念台頭を受けてGIPS金利は上昇。独10年のマイナス圏突入がいよいよ目前に迫りつつある。

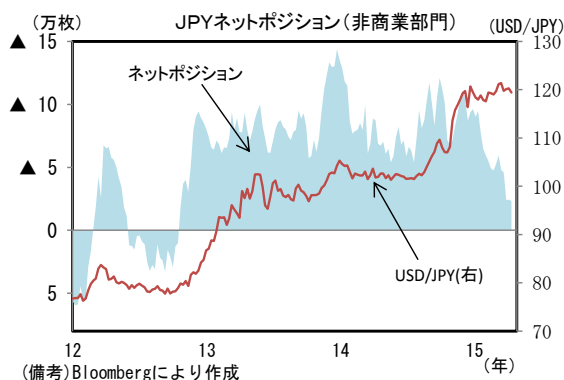
【国内株式市場・経済指標他】～消費者マインド：持ち直し～

- ・日本株は前週末のグローバルリスクオフを受けて安寄り後、日経平均19500レベルでは押し目買い意欲が強く、プラス圏に浮上（12：40）。
- ・前週末発表の3月消費者態度指数は41.7と2月から0.8pt改善。暮らし向き（38.4→38.8）、耐久財買い時判断（39.8→40.6）、収入の増え方（38.8→39.4）、雇用環境（46.5→47.8）が揃って改善。景気ウォッチャー調査の家計・先行き判断D Iとの改善と総合的に消費者マインドが好転しつつあることを裏付けている。行楽シーズンを前に既往のガソリン安が消費者心理を刺激したほか、賃上げ観測（報道）も実質可処分所得の上昇期待を通じて消費者マインドを好転させたとみられる。
- ・2月第3次産業活動指数は前月比+0.3%と1月（+0.7%）に続き堅調な結果となった。2月分発表と同時に年間補正が施されたため、補正前よりも直近の伸び率が幾分鈍化したものの、それでも年率4%の上昇軌道は維持されており、水準も消費増税に伴う駆け込み需要発生前を回復している。



【注目点】

- ・直近2ヶ月程度、USD/JPYは120±2のナローレンジを形成。軟調な米指標がFEDの利上げ観測後退を通じて目先のUSD高上昇期待を消失させる一方、FEDが遅かれ早かれ利上げに踏み切ることにより日米金融政策のベクトル相違が鮮明化するという中長期ビューは揺らいでおらず、両者が綱引きする格好となっている。短期筋がポジション整理する傍ら中長期的なUSD/JPY上昇を固持する投資家が下値を拾いに行ったという構図だろう。そうしたなかで注目されるのは投機筋のポジション。前週末発表のIMMデータによるとJPYショートポジションは前週から一段と縮小して2.31万枚となった。これはQQE開始以降で最も小幅だが、別の見方をするとJPYショートポジションが再構築される余地が最も大きいということでもある。実際、アベノミクス開始以降に何度か訪れたUSD/JPY急上昇局面ではその発生前にJPYショートポジションが縮小していた（たとえば昨年9月と11月）。今後、JPYショートポジションが再拡大するタイミングとしては軟調な結果に終わった3月からの反発が期待される4月雇用統計が最有力だろう。NFPが20万人ペースに再加速し、平均時給が引き続き上昇すれば、FEDの利上げ観測が市場全般に浸透することでUSD高トレンドが復活する可能性があるだろう。



<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均※	19647.20	-5.68
N Y ダウ	17,826.30	-279.47
D A X (独)	11,688.70	-310.16
FTSE100 (英)	6,994.63	-65.82
CAC40 (仏)	5,143.26	-81.23

<外国為替>※

USD/JPY	118.86	-0.05
EUR/USD	1.08	-0.00

<長期金利>※

日本	0.310 %	0.002 %
米国	1.865 %	-0.024 %
英国	1.584 %	-0.023 %
ドイツ	0.078 %	-0.007 %
フランス	0.370 %	0.018 %
イタリア	1.478 %	0.099 %
スペイン	1.454 %	0.103 %

<商品>

N Y 原油	55.74 <small>ドル</small>	-0.97 <small>ドル</small>
N Y 金	1202.90 <small>ドル</small>	4.90 <small>ドル</small>

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg

